

第17回 第3次東員町行財政検討委員会会議録

1. 開催場所	東員町役場 西庁舎201・202会議室
2. 開催日時	平成25年11月26日(火) 午後2時00分 開会 午後4時05分 閉会
3. 出席委員 (敬称略)  出席幹部	岩崎恭典 酒谷宜幸 阿久根チサエ 川杉美津江 馬場順子 三浦信一 毛利次郎 藤田昌義 伊藤郁子 中村宗和 伊藤英也 (欠席:種村拓夫) 総務部長 総務課長 政策課長 財政課長 総務課課長補佐及び係長
4. 内 容	<p>○事務局から本日の協議事項・配布資料について説明</p> <p>1. 町長あいさつ</p> <p>イオンがオープンし多くのお客さんが入っています。交通渋滞があるため、子どもたちに影響が出ないようにしたいと思います。就任し3年目になりますが、もたれあいの構図があるような気がします。この行財政検討委員会では、これまで諸団体にメスを入れていただきましたが、本町も地域づくりをどうしていくかを考えないといけません。</p> <p>日本にいる以上、どこにいても災害は起こります。災害をなくすことはできませんが、起きた時にどう対処していくかが大切です。そのためにも地域づくりをしなければなりません。</p> <p>これまで町として、いろんなことに手を出しすぎていました。本当に自立した地域づくりのためには、手を離す必要もあり、そういった方向転換を考えていかなければなりません。また、職員の人材育成をやらなければなりません。職員一人ひとりが、今何をやらなければならないかを考える必要があります。そんな中、皆さまにいろいろお世話をいただくこととなりますので、よろしくお願いします。</p>

## 2. 委員長あいさつ

○会議録に基づき、委員長による前回会議の振り返り。

第1次、第2次の行財政検討委員会のこれまでの取り組みで、一定の成果はあった。例えば職員数の削減は達成度が高いです。今後はいろいろな施設、道路も古くなっています。節約することや収入を増やすことも大切ですが、10年、20年後の東員町を考えてどうしていくのかの検討がなされる必要があります。町民の皆さんに意識を変えていただく必要があります。10年、20年を見据えた行財政改革がどうあるべきかを考える必要があります。そのため東員町経営プランという名称になるのかわかりませんが、今後の行財政改革の計画を検討するにあたり皆さんからの意見をいただき、町としていったん受け止めて町のプランをどう作るかについて検討し、そのプランを我々に示していただきたいと思います。

## 3. 第16回第3次東員町行財政検討委員会の会議録について

○第16回の会議録についての内容確認（決定）

## 4. 協議事項

(1) 今後の行財政検討委員会の方向性について

○協議概要報告

副町長 : 先般、正副委員長、町長と今後の行財政検討委員会のあり方について議論しました。みんなが色々なものを享受して財政的に難しくなって役場と町民の関係を変えなければいけません。我々は、10年若しくは5年後には、新たな関係を築いていく必要があります。平成21年に補助金の問題を議論され、町長に報告を受けても何もやっていませんでした。自らやる必要があります。すぐやらなければならないもの、長期的にやるべきもの、システム構造

から変えなければならないものに区分けしてやるべきと思います。補助金の出し方、内容、運営補助というわかりにくいものから、事業への補助に変えていっております。組織を変えることについて色々批判をいただきましたが、組織を変えて仕事をやりやすくするようにさせていただきました。

委員長 : 補助金の提言について実現に至っていないとありましたが、大変しんどい部分です。組織風土を変えているし、地域力をつけていく風に変えていきたい、そういうプランを作っていく必要があります。東員町を作るのは、企業がいて、子どもがいてなど住民がいます。お金で色々やる時代ではありません。そのために、ご意見をお寄せいただきました。

委員 : これまでの行財政検討委員会では、収入をどうするかについて意見を求められてこなかった。これをどうするかについて考えなければいけない。支出について改革すると住民に負担をかけ、不満が出る。今後の町のグランドデザインを示すべきだ。総合計画との関係はどうなるのか。

委員長 : 収入増という面では、イオンモールができたことは大きいと思います。

政策課長 : 総合計画は、まちづくりをどうしていくかという総花的に書いてあります。委員の皆さんからいただくご意見として分けた25のジャンルは、各課の所掌事務から成り立っているもので、おおよそ総合計画に書かれています。

委員 : 東員町は何に基づいてやるかというのと、この総合計画である。10年計画なので、3カ年計画を作ってやらないといけない。3カ年計画が大切だと思う。住民にそれを出して知らせるべきだ。

	<p>委員 : 事務業務の中には、行政裁量の部分があるのでわからない。ルーチンとしてやるべきものと行政裁量との区別が、この意見を書くにあたって、どうして良いのかわからなかった。</p> <p>委員長 : 総合計画は、目標を共有するためのものです。行革は総合計画を達成するための推進エンジンです。この25項目は、総合計画と並びは違います。行政裁量のところを削らないといけないのですが、皆さんからネタ出しをしていただきたいと思います。住民として率直な感覚をうかがえればと思います。</p> <p>委員 : 団地の高齢化に伴い、リタイア世代の知恵や経験を活用できるような、より有効な施策の策定を職員の方々に期待します。この委員会では、今のところ町の事業の見直しなど手付かずである。もっとやるべきことがあるような気がする。今後1年はもっと中身のある検討をするべきである。</p> <p>また、町は、職員の人員配置をどのようにしてきたのか。人事異動があり、3年で何もやらずに変わるというようなことや、前例踏襲でしか仕事をやらないところがあり、責任逃れのように思われる。</p> <p>委員長 : ゼネラリストを作るという点では色々なところを見る必要がありますが、数年だと何もできません。人事評価も課題だと思います。</p> <p>委員 : 今後収入が減るということは、町の事業に住民参加を求めていくしかない。また、男女共同参画について意見を書いたが、男女共同参画町づくり推進会の組織運営に問題があると思う。そして、ごみの減量については、各世帯みんながやらないと取り組めない。クリーン作戦だけではごみの減量はできない。</p>
--	---

	<p>委員長 : 自立支援、ボランティアについては、今後は地域で担っていただくところもあるということが、総合計画に書いてあります。それを加速させてということです。また、男女共同参画については、何か問題があれば委員の任期は5年を限度とするなどの指針や補助金要綱でつくる事はできるのではないのでしょうか。議会については、この委員会では議論の対象外ですので言えません。</p> <p>委員 : 町の施策を進める上で住民参加が大切だが、例えば子育て支援など意思のある方と役場をつなぐパイプが上手くいけば潤滑にいく。例えば、仕事をリタイアされた方も何かやりたいが、シルバー人材センターでは抵抗を感じる方がいるので、そういう方と役場のパイプが大事である。防災など女性の意見を入れてソフト面を組み込んでいただきたい。</p> <p>委員 : 町の基本的なコア業務については、スモールガバメントが必要である。また、住民のことは住民でやるという住民参加は必要である。ただ、住民参加はそう簡単ではない。いろんな団体の構成員は重複している。さらに、構成員は高齢化している。団体は自主財源がないので、行政がバックアップしないと何もできない状況だ。さらに、団体を作り上げる事で苦しいのは後継者がいないという問題だ。行政と団体と話し合う必要があり、住民の自覚や人集めも大切だが、財源をちゃんと考えて取り組むべきだ。</p> <p>委員 : 66歳で年金生活をしている。我々は、団塊の世代だが、どんな町になって欲しいか、何が町に欠けているのかを考えた。なまじっかな貯えでは、老人ホームに入れたい。自分の生活を変える必要がある。そういうインパクトを与えられるものが必要と思う。我々は、自分でできることは自分ですると</p>
--	---

	<p>いうこと。</p> <p>また、思い切って東員第一中学校を中部公園や東員駅の近くに移設し、一中を介護施設に転換したらどうか。</p> <p>委員 : 人事評価をしっかりとし、年功序列をやめ能力主義にすべきである。農業の補助金 15,000 円を 7,500 円に半減しましたが、担い手が育つのか疑問である。農業は、国の施策に基づいた町の施策を示すべきだ。また、遊休農地を利用し、新しい農作物を作り出すべきだ。</p> <p>委員 : 男女共同参画町づくり推進の会に入っているが、偶数月の広報とういんの記事を書かないといけない。これが大変である。男女共同参画プラン策定委員会では役場の人の指導があり策定は上手くいっていたが、推進の会は、役場の方の関わりがなく、一部の方がやっている。広報とういんの記事作成も一部の方だけがやっている。役場は放ったらかしだ。研修も旅費 1,000 円だけで放ったらかしである。</p> <p>野菜・園芸教室について、温室管理を頼まれてボランティアをやっているが、町は方向性を持つようなリーダーシップをもっと発揮してやって欲しい。</p> <p>委員長 : 今のご意見は、役場と住民の関係をどう作るかというときの論点だと思います。</p> <p>委員 : 農業振興としていうなら、用水路の問題がある。神田土地改良とともに検討していただきたい。</p> <p>また、上水道の老朽化対策をどう整備していくのか。そして、笹尾連絡所は有効に活用されているのか。コミュバスも走っているのであり方を考えるべきだ。</p>
--	--

委員 : 行革をやることについて、担い手である役場が意識改革、イノベーションをして欲しい。町の長期計画である総合計画に、真剣に取り組んで欲しい。そのためには、3年計画をきちんと作ってどこの組織が主導で取り組むかを明確にするべきだ。

ほとんどの議案は、庁内で作っている。出した後どうなったかを見ているか。役場は、もっと目標を持つべきである。特に住民満足度などの目標を持って欲しい。

行財政改革のためには、役場のイノベーションを見直す必要がある。また、一番の根源である財政が大切である。岩崎先生がひばりホールで行財政改革の講演をされてから7年経った。役場は、町の財政の現状を住民に知らせる広報が大切である。一般会計は良いが、特別会計、公営企業会計は関係者が感覚でやっていては困る。それらについて、もっと広報で財政状況を出して欲しい。水道料金と下水道料金にも問題がある。(下水道会計について) 7億6千万円のうち3億3千万円を一般会計から繰り入れられている。こういうことは住民のみんなが知らない。

水道料金はこれでいいのか。こういうことを執行者である役場の組織でしっかり見ていくべきだ。

総合計画の進捗状況を役場だけで管理できないのであれば、住民を巻き込んでやるべきだ。

副委員長 : いろんな形で、行財政検討委員会から理論的な話や意見を言ってきたが、さらに材料をもらってやっていく段階ではないと思う。ミクロに入りすぎてマクロ的なところが疎かになってしまうのではないか。細かなところに入りすぎると総論的、本質的なところへ入れなくなる。これまでの議論をもとに何をすべきか、まずは役場で悩んでいただく必要がある。

	<p>委員長 : 個別具体的な話から、本質的な課題を役場から出してください。</p> <p>副町長 : このメンバーだけの行革になっています。常日頃、役場の職員が何をすべきかを考えるよう言っています。小さな町で、住民と役場の関係がべったりで、緊張感がありません。まさに役場内イノベーションがないといけません。一つ一つ各分野で自分達がやっていることがいいことなのか仕事の点検が必要です。また、人材育成のため人にお金をかける必要があると感じています。職員には、外の空気を吸う、人の話を聞く、東員町内の声を聞くよう話をしています。</p> <p>委員長 : 意見を受けてできないものは、何々だからできないと理由を添えて説明をお願いします。イノベーションを役場から図っていく、住民にもイノベーションを求めていくような、行財政改革計画の素案のようなものをこの場で議論しましょう。時間が必要でしょうから、年を越えてから改めて報告いただくという事でよろしいでしょうか。</p> <p>総務部長 : 本日ご意見をいただいたものを検討させていただきます。まずは、職員の意識改革からさせていただきたいと思います。いただいたご意見については、団体の方も色々感じております。課員からなるプロジェクトを立ち上げて報告いたします。</p> <p>町長 : 役場としてはもたれあい体質から脱却しなければなりません。職員個人個人が自立していくという事をしていかないと、前へは進めません。自律していくという事を肝に銘じて、これから進んで参りたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">午後 4 時 0 5 分 閉会</p>
--	---